

自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成講習会

平成 29 年 2 月 17 日（金）～2 月 19 日（日） 2 泊 3 日

○目的

自然体験活動を中心に、子供の発達段階において、効果的かつ適切に活動の指導ができる人材の育成を図るとともに、指導者としての資質や力量を高めることを目指す。

○参加者

国公立青少年教育施設、NPO法人、宿泊施設の職員、
法人ボランティア等 合計 27 名

○事業の内容

(1) 「自然体験活動の安全管理」(実習)

講師：御殿場市・小山町広域行政組合御殿場消防署西分署署員

最初に三角巾を使って頭部の支持包帯の仕方を練習した。その次に腕の固定包帯の仕方及び足首の固定包帯の仕方を二人組になって練習した。その後、2グループに分かれてAEDの使い方を学んだ。手順や声のかけ方、気をつける点などを教わった後、順番に一人ずつ声をかける人、AEDを持ってきてセットする人、119番をする人などにわかれて練習した。途中で緊急出動で署員が出てしまったため、自分たちでお互いに教わったことを確認をしながら、練習をした。最後に消防署が用意してくれた資料をもとに、119番通報と救急車の呼び方を学んだ。その後、交流の家職員により、KYTシートを用いた安全管理について学んだ。



(2) 「青少年教育における体験活動」(講義) **講師：交流の家職員**

最初に教育基本法から教育の目的や教育の目標について学びその次に社会教育法から社会教育の定義について学んだ。さらに青少年教育は個人のニーズや社会で必要とされていることを身に付けることを目的として考えていくことが大切であることを学んだ。その後、青少年教育の現代的な課題、青少年教育施設数の変遷、国の政策の流れ、青少年教育の方法や体験活動の定義、体験活動の分類などを学び、広い視点から体験活動について理解を深めた。



(3) 「自然体験活動の技術」(実習) **講師：交流の家職員**

前半は、野外炊事の意義についての話を聞いた後、交流の家で野外炊事を行う場合の道具の準備、炊き付け、片付け及び安全面についての説明を聞いた。その後、グループごとに炊事の手順等について話し合い、カレーライスづくりを行った。後半、来年度からプログラムに取り入れる「イングリッシュ・ウォークラリー」をグループごとに行った。途中3箇所チェックポイントを設け、バイオライトによる発電とロープワークを体験し、さらにハチなどの危険生物について学んだりした。



(4)「対象者理解, 自然体験活動の特質」(講義)

講師：文教大学准教授 青山鉄兵氏

青少年の成育環境の変化や自然体験の現象などから、現在自然体験への社会的な注目が高まっていること、自然体験を通じて道徳観や正義感が育まれることなどを学んだ。その後より良い自然体験のために何をどうやって体験させるべきかどうやって評価するのが良いのかなどを考え、その上で、大切なのは結果ではなくプロセスであることを学んだ。最後に青少年をとらえる視点、理解するための留意事項などについて学んだ。



(5)「自然体験活動の指導」(講義) 講師：交流の家職員

指導者の基本的な心構えと倫理観について学んだ。最初に、指導者は教育者であるからそのことを意識して行動すること、またどのような指導者が子どもたちに信頼され支持されるのか、ボスとリーダーの違い、リーダーシップの取り方には2種類あることなどを学んだ。その次に、言葉遣いやコミュニケーションのとり方、説明の仕方などを学び、最後に倫理面での心構えとして、セクハラに注意することや個人情報の管理、パワハラに気をつけることなどを学んだ。



(6)「自然体験活動の特質」(講義)

講師：常葉大学准教授 白木賢信氏

最初に自然体験活動と野外教育の関係について、分析枠組をもとに考えた。次に野外教育の捉え方について学んだ後、自然体験活動の教育的意義について、「野外教育に期待される成果」と「自然体験活動に内包される体験」の関係から考えた。最後に自分自身の実践経験について振り返り、その実践が野外教育に期待される成果のどの部分に該当するのか考えて、グループで話し合った。



《受講生の感想から》

- 久しぶりに「自分のため」といった感じで参加したので、いつもと違った学びを得られた。
- グループワークもあったので新しいアイデア等生まれて良かったです。
- 資格取得のためという流れが主流であれば良い指導者が育つとは思えない。講習内容、プログラムは再構築したほうが良いと思う。

《成果と課題》

いろいろな知識や経験を持った様々な立場の講師の人たちから話を聞くことができ、自然体験に関する造詣を深めることができた。また、参加者どうし普段知り合うことのない施設の人たちとも交流を深めることができ、有意義な時間になっていた。ただ、参加者のニーズやレベルが一人一人大きく異なるため、今後NEALそのものの対象や内容を明確にしたり、講習内容を細分化したりすると同時に、NEAL資格の価値や実用性を高めていく必要がある。